

SKV・SIVが集結 防災への思い新たに



防災・防犯と地域貢献を柱に活動する専修大学学生ボランティア団体の創立15周年を記念したイベントが11月29日、神田

法3)とSIV(専修生ボランティア、代表)皆川夏光さん、瀬川凌平さん・ネット情報3)の卒業生と現役メンバーら約160人が出席し、これまでの活動を振り返るとともに未来へとバトンをつなぎだ。

2010年11月、災害ボランティア講座の受講生有志がSKVを結成。翌年の東日本大震災での活動を経て、12年にSIVが設立された。現在は専修大学ボランティア推進委員会の傘下団体として、キャンパス周辺の清

掃、各種イベントでの防災・防犯の啓発などを行なっている。

キャンパスで開かれた。

同団体に所属するSKV(専修神田ボランティア、代表)皆川夏光さん・瀬川凌平さん・ネット情報3)の卒業生と現役メンバーら約160人が出席し、これまでの活動を振り返るとともに未来へとバトンをつなぎだ。

守屋雄介さん(平25法)

と松本真悟さん(平26経)

皆川さんは「なぜ防災を

学ぶのかを考えながら、避難

見を生かしながら、避難

一が協力して、各自の知

所運営を体験した。

引き続き、帰宅困難者

支援施設運営ゲームの専

修大学版「S-KUG」

で

学生ボランティア団体創立15周年

Clean Town in KANDA 約100人が清掃活動

地域とともに

地域清掃活動「Clean Town in KANDA」が千代田区の一斉清掃日でもある11月6日に行われた。SKV(専修神田ボランティア)と神田ECOボランティアのメンバーを中心、教職員や学生、地元町会(神三町会、北神



神保町駅周辺で活動する学生たち



現在の活動を紹介した皆川さん



11月19日には専修大学ボランティア推進委員会がSIVと協力し、防災食フェアを実施。生田キャンパスに地震体験車が設置され、多くの学生が震度7を体験した

データDVについて理解を深めたワークショップ



データDV予防へ理解深める

専門家招きワークショップ 恋人間の暴力「データDV」の予防と啓発を目的にしたワークショップが11月5日、生田キャンパスで開かれた。川崎市と本学キャンパス・ハラスメント対策室(内藤光博室長)の共催。永野由紀子人間科学部教授の「家族の社会学2」の授業内で行われ、学生約140人が座学とグループワークを通じて理解を深めた。

3組に1組の割合で起きていると言われるデータDV。講師を務めた認定NPO法人エンパワメントかながわ(横浜市)理事長の阿部真紀さんは、「大学生にとっても非常に身近な問題だと強調し、「交際相手の交友関

係、服装、予定、SNSなどを制限・監視する行為も暴力にあたる。そこから身体的、精神的、経済的暴力に発展していく事例をもとに、被害者・加害者双方の気持ちや、被害者の友人としてできることを考えた。学生から上がった意見を踏まえ、阿部さんは「当たり前D.V.の意識がないことが多い。周りで気づいた人が専門機関などに相談してほしい」とアドバイスした。

人間科学部の2年次生葉の意味は広く、さまざま暴力が含まれることが分かった」と話した。

多摩区3大学コンサート DTMが熱演



川崎市多摩区にゆかりのある専修、明治、日本女子の3大学の学生による「多摩区3大学コンサート~水と緑と学びのまち~」が11月8日、多摩市民館大ホールで開かれた。本学からは、ジャズダンスサークルDance Team MISAKI (DTM) が初出演し、全6曲を熱演した。

DTMは学年ごとにチームを編成し、時に優雅に、時に力強く、個性豊かなダンスを披露した。代表の追中彩さん(法3)は「広いステージで音響も良く、素晴らしい環境で、ベストパフォーマンスを見せることができた」と話した。

このイベントは多摩区・3大学連携協

議会の事業の一環として行われ、会場には今年で20周年を迎えた同協議会の活動を振り返るパネルが展示された。また、コンサートの締めくくりには、3大学の学生と観客と一緒に歌を歌うなど、一体感あふれるムードだった。



専修人の



誰ひとり取り残さない図書館サービス~多様なニーズに寄りきる8つの事例~

センターなどと連携して認知症の人が安心して利用できる身近な公共施設である。ところが、図書館の利用を阻む何らかの障壁(バリア)に直面している人もいる。例えば、障がい者、高齢者、外国人などの人がバリアフリーの世界に直面しやすい。

このほかに七つの事例を本書では紹介している。なお、本書は、2023年に上梓した『読書読みいただけると幸いである。(三和書籍・税込み2200円)』

川崎市立宮前図書館では、地域包括支援本学生田キャンパスがある川崎市。市立宮前図書館では、地域包括支援情報学。野口武悟著

図書館は誰もが無料で利用できる身近な公共施設である。ところが、図書館の利用を阻む何らかの障壁(バリア)に直面している人もいる。例えば、障がい者、高齢者、外国人などの人がバリアフリーの世界に直面しやすい。

このほかに七つの事例を本書では紹介している。なお、本書は、2023年に上梓した『読書読みいただけると幸いである。(三和書籍・税込み2200円)』